

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	市川 哲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この「キリスト教学I」は、必修科目として開設されています。キリスト教の精神に基いて建てられた松蔭女子学院の使命として、学生がキリスト教思想に触れ、その精神を理解することが願われているからです。この講義の中で扱う内容として、以下の3点が挙げられます。</p> <p>① キリスト教信仰の目的とは何か。聖書に込められている精神とはなにか。これらについて、特に文化的な視点で捉える。</p> <p>② 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。</p> <p>③ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。</p> <p>この講義は、キリスト教の伝道（布教）を目的とするものではありません。しかし、ある特定の思想を学ぶ際に、それ自体についての基礎的な知識をもつことは大切です。試験ではその点についても、評価の対象とします。</p>
授業計画 Syllabus	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行いません。</p> <p>第1回 キリスト教とは（ガイダンス）、聖書とはどのような書物か I</p> <p>第2回 聖書とはどのような書物か II、イエス・キリストの生涯</p> <p>第3回 イエスの福音 I 悪霊</p> <p>第4回 イエスの福音 II 病気直し</p> <p>第5回 イエスの福音 III たとえ話</p> <p>第6回 イエスの福音 IV 「いと小さきもの」への視座</p> <p>第7回 イエスの福音 V 律法との対決</p> <p>第8回 イエスの受難、復活</p> <p>第9回 イエスの昇天から初代教会、教会の分裂と一致</p> <p>第10回 旧約聖書の時代史 I バビロン捕囚を基点として</p> <p>第11回 旧約聖書の時代史 II イスラエル共同体の成立</p> <p>第12回 アドベントとクリスマス、キリスト教と音楽</p> <p>第13回 神戸のキリスト教と阪神・淡路大震災</p> <p>第14回 旧約聖書の時代史 III 捕囚以降</p> <p>第15回 破壊的カルトについて</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります（教務からの指示）。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合もあります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 + α） 期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点） 論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は10月下旬ごろに示します。 定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。 論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 教会出席レポート（15点） これまで教会の礼拝に出席の経験がある人に限定とします。あらかじめ出席教会の登録が必要です。詳しくは別紙参照。</p> <p>④ 文献紹介（15点）</p>

評価方法 Evaluation	<p>論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。</p> <p>各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講義においては、高等教育にふさわしい受講態度を求めます。講義に出席しないことを含め、本人の自覚的な判断を尊重します。講義時間中に質問時間はとります。なお、講義の妨害になる行為は禁止します。具体的には、</p> <p>私語、飲食、携帯電話（メール含む）、化粧、みだりに席を離れまた早退すること</p> <p>これらについて、注意しても態度を改めない場合、教室からの退席を求め、成績の減点をすることもあります。注意してください。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約続編なし）を購入してください。</p>
参考書 Reference(s)	<p>参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。</p>
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	市川 哲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この「キリスト教学I」は、必修科目として開設されています。キリスト教の精神に基いて建てられた松蔭女子学院の使命として、学生がキリスト教思想に触れ、その精神を理解することが願われているからです。この講義の中で扱う内容として、以下の3点が挙げられます。</p> <p>① キリスト教信仰の目的とは何か。聖書に込められている精神とはなにか。これらについて、特に文化的な視点で捉える。</p> <p>② 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。</p> <p>③ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。</p> <p>この講義は、キリスト教の伝道（布教）を目的とするものではありません。しかし、ある特定の思想を学ぶ際に、それ自体についての基礎的な知識をもつことは大切です。試験ではその点についても、評価の対象とします。</p>
授業計画 Syllabus	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行いません。</p> <p>第1回 キリスト教とは（ガイダンス）、聖書とはどのような書物か I</p> <p>第2回 聖書とはどのような書物か II、イエス・キリストの生涯</p> <p>第3回 イエスの福音 I 悪霊</p> <p>第4回 イエスの福音 II 病気直し</p> <p>第5回 イエスの福音 III たとえ話</p> <p>第6回 イエスの福音 IV 「いと小さきもの」への視座</p> <p>第7回 イエスの福音 V 律法との対決</p> <p>第8回 イエスの受難、復活</p> <p>第9回 イエスの昇天から初代教会、教会の分裂と一致</p> <p>第10回 旧約聖書の時代史 I バビロン捕囚を基点として</p> <p>第11回 旧約聖書の時代史 II イスラエル共同体の成立</p> <p>第12回 キリスト教と音楽</p> <p>第13回 神戸のキリスト教と阪神・淡路大震災</p> <p>第14回 旧約聖書の時代史 III 捕囚以降</p> <p>第15回 破壊的カルトについて</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります（教務からの指示）。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合もあります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 + α） 期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点） 論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は5月上旬ごろに示します。 定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。 論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 教会出席レポート（15点） これまで教会の礼拝に出席の経験がある人に限定とします。あらかじめ出席教会の登録が必要です。詳しくは別紙参照。</p> <p>④ 文献紹介（15点）</p>

評価方法 Evaluation	<p>論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。</p> <p>各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講義においては、高等教育にふさわしい受講態度を求めます。講義に出席しないことを含め、本人の自覚的な判断を尊重します。講義時間中に質問時間はとります。なお、講義の妨害になる行為は禁止します。具体的には、</p> <p>私語、飲食、携帯電話（メール含む）、化粧、みだりに席を離れまた早退すること</p> <p>これらについて、注意しても態度を改めない場合、教室からの退席を求め、成績の減点をすることもあります。注意してください。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約続編なし）を購入してください。</p>
参考書 Reference(s)	<p>参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。</p>
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	キリスト教への入門。宗教としてのキリスト教の特徴と歴史を学ぶ。イエスの生涯と思想について福音書を通して学ぶ。文学作品として福音書を読む。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> 1) 聖書の内容 (1)、キリスト教はどのような宗教か 2) 聖書の内容 (2)、礼拝と音楽 (1) 3) 古代イスラエルの歴史、礼拝と音楽 (2) 4) 神と人間 (1) 5) 神と人間 (2)、礼拝と音楽 (3) 6) イエスの教え (1)、福音書について (1) 7) イエスの教え (2)、福音書について (2) 8) キリスト教の歴史 (1) 9) キリスト教の歴史 (2) 10) イエスの生涯 (1)、プロテスタントの職業倫理 11) イエスの生涯 (2) 12) イエスの教え (3)、主の祈り 13) イエスの生涯 (3) 14) イエスの生涯 (4) 15) まとめ、試験
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	平常点50%（小テストおよび小レポートを含む）、期末の試験50%を原則とする。
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻しないこと。毎回聖書を持参すること。
教科書 Textbook (s)	「聖書」（どの聖書を用いるかは、最初の講義で指示する）
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	勝村 弘也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	キリスト教への入門。宗教としてのキリスト教の特徴と歴史を学ぶ。イエスの生涯と思想について福音書を通して学ぶ。文学作品として福音書を読む。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 聖書の内容 (1)、キリスト教はどのような宗教か 2) 聖書の内容 (2)、礼拝と音楽 (1) 3) 古代イスラエルの歴史、礼拝と音楽 (2) 4) 神と人間 (1) 5) 神と人間 (2)、礼拝と音楽 (3) 6) イエスの教え (1)、福音書について 7) イエスの教え (2) 8) イエスの教え (3) 9) イエスの生涯 (1) 10) イエスの生涯 (2) 11) イエスの生涯 (3) 12) キリスト教の歴史 (1) 13) キリスト教の歴史 (2) 14) イエスの生涯 (4)、試験 15) まとめ
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	受講の態度、数回のレポート、試験を総合して評価。欠席回数が多い者には単位を認定しないことがある。5回以上欠席した場合は、受験資格を失う。レポートを含む平常点（50パーセント）、試験（50パーセント）を原則とする。
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻しないこと。聖書を持参すること。聖書については最初の講義で指示する。
教科書 Textbook (s)	「聖書」（どの聖書を用いるかは、最初の講義で指示する）
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的 キリスト教を知る</p> <p>授業の概要 本授業の目的である「キリスト教を知る」という言葉は、「キリスト教」と「知る」という二つの言葉からできています。「キリスト教」については、これからの半期の授業で少しずつ学んでいきますので、ここでは本授業にとっての「知る」ということの意味を、わたしが専門とする新約聖書が書かれた古代のギリシャ語から説明したいと思います。ギリシャ語で「知る」という語はギノースコーと言いますが、その意味は「知る」ということにとどまらず、「認識する」「知覚する」「判断する」といった多様な趣を持っています。ですから、本授業にとって「知る」ということは、漠然とキリスト教を「知る」ということだけではなく、キリスト教について、自らの身をもって「認識する」こと、自らの五官（五感）によって「知覚する」こと、自分自身で「判断する」ことを意味します。したがって、大学での学問として、キリスト教という宗教を知的に「知る」ことであると同時に、本学の建学の精神であるキリスト教を精神的に「知る」ことが、本授業の目的ということになります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1回目 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、定期試験、聖書等の説明。</p> <p>2回目 聖書を知るⅠ 聖書と正典、旧約聖書と新約聖書。</p> <p>3回目 聖書を知るⅡ 旧約聖書概論、十戒を読む（出エジプト記20章）。</p> <p>4回目 聖書を知るⅢ 新約聖書概論、新約聖書の文学類型（福音書、行伝、書簡、黙示録）。</p> <p>5回目 キリスト教の歴史を知るⅠ キリスト教通史、教会史概論。</p> <p>6回目 キリスト教の歴史を知るⅡ キリスト教思想史、ディートリヒ・ボンヘッファーの生涯と思想。</p> <p>7回目 キリスト教の文化を知る キリスト教の文化、キリスト教の儀式と礼典。</p> <p>8回目 イエスの教えを知るⅠ 山上の説教（マタイ福音書5-7章）。</p> <p>9回目 イエスの教えを知るⅡ 主の祈り（マタイ福音書6章9-15節、ルカ福音書11章2-4節）</p> <p>10回目 イエスの生涯を知るⅠ イエスと隣人愛（ヨハネ福音書13章31-35節、15章11-17節）。</p> <p>11回目 イエスの生涯を知るⅡ イエスと心（マタイ福音書6章21節、ローマ書10章5-10節）。</p> <p>12回目 イエスの生涯を知るⅢ イエスの誕生と二つのクリスマス物語（マタイ福音書1福音書2章、ルカ1-2章）。</p> <p>13回目 イエスの生涯を知るⅣ イエスの受難と復活の物語Ⅰ（マルコ福音書14-16章）。</p> <p>14回目 試験とイエスの生涯を知るⅤ。 授業中試験、イエスの受難と復活の物語Ⅱ（マルコ福音書14-16章）。</p> <p>15回目 キリスト教を知る 授業の総まとめ、試験に対するフィードバック。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>授業は講義形式によって進めます。その理由は、まずは聞くことによって、必要な基本的知識を身につける必要があるからです。しかし、それが教員から学生への知識や情報の一方的な伝達になっては、授業の意味も半減してしまいます。その意味において、その都度抱いた疑問や意見などを積極的に出し合いながら授業を進めることが重要ですので、学生一人一人が積極的に授業に参加することを期待しています。</p>
評価方法 Evaluation	<p>受験資格 原則として、3分の2以上の出席が必要となります。したがって、5回以上欠席した場合には受験資格を失うこととなります。遅刻および早退は2回で1回の欠席に数えます。各自で自分の出席状況をしっかりと把握しておいてください。なお、欠席および遅刻と早退は、評価のさいにそれぞれ減点対象になりますので、注意してください。また、欠席に関する諸事情については考慮しますので、出席状況についても遠慮なく担当者にお尋ねください。</p>

<p>評価方法 Evaluation</p>	<p>評価方法 通常評価と定期試験によって成績の評価をします。成績評価の比率としては、通常評価30%、定期試験評価70%とします。なお、通常評価とは授業態度、授業への積極的な参加状況などに基づく評価であり、定期試験評価とは14回目授業において実施する筆記試験の点数に基づく評価のことを表します。</p> <p>定期試験 定期試験は14回目授業時に実施します。受験にさいしては、答案に努力の跡が見られるようにし、白紙の部分がないようにすること。試験には配布プリント（レジュメ）、参考書、辞書など全て持ち込むことが可能です。また、定期試験に欠席すると単位の取得が困難となりますので、病気等の理由がない限り、必ず定期試験に出席してください。なお、15回目の授業で試験のフィードバック（赤点等の救済措置等）を行いますので、最終授業にも必ず出席してください。</p>
<p>履修上の注意 Requirements and policy</p>	<p>1. 聖書を持参して授業に出席してください。本授業はキリスト教概論の授業であり、必要に応じて聖書に触れていきます。特に、授業の後半は聖書の概要を学びますので、授業には聖書を持って臨んでください。</p> <p>2. 授業における聖書の朗読や意見の表明は、授業への積極的な参加と見なし、加 points しますので、積極的に授業に参加してください。人前で話しをするのが苦手な人もいるとは思いますが、受動的に授業に出席するのではなく、積極的に授業に参加して下さることを期待しています。</p>
<p>教科書 Textbook(s)</p>	<p>1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 上記に挙げた聖書を用意してください。聖書には大型、中型、小型、およびハンディタイプなどがありますので自分の用途に合わせて購入してください。第1回目の授業で用意する聖書の詳細について説明します。</p> <p>2. 配布プリント（レジュメ）。 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。 なお、授業において配布するプリント（レジュメ）は定期試験に持ち込めるので、授業中に担当者から指示のあった内容や各自が重要だと判断したことをメモに取り、自分のプリントを復習のために精読すれば、キリスト教学 I の重要な学習になると同時に、それがそのまま試験対策にもなります。</p>
<p>参考書 Reference(s)</p>	<p>毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。参考文献（参考書）とは、そのときの授業の内容に関してさらに進んで学ぶために読むものですので、興味のある課題や書物については、その都度入手するか大学図書館で借りて読むなどしてください。</p>
<p>備考 Remarks</p>	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ：キリスト教の基礎知識】</p> <p>本講義ではキリスト教の基礎知識（旧約聖書ダイジェスト、新約聖書ダイジェスト、イエス・キリストの生涯、キリスト教史ダイジェストなど）を提供します。さらにキリスト教思想（原罪論、贖罪論など）のエッセンスを今日の文脈において再解釈しつつ論じます。到達目標は、神戸松蔭の建学の精神を学問的なキリスト教の知識に基づいて説明できるようになることです。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：キリスト教を学ぶ意味</p> <p>第3回：旧約聖書ダイジェスト（1）天地創造の神話</p> <p>第4回：旧約聖書ダイジェスト（2）イスラエル民族の興亡</p> <p>第5回：旧約聖書ダイジェスト（3）救世主の待望</p> <p>第6回：新約聖書ダイジェスト（1）新約聖書成立の謎</p> <p>第7回：新約聖書ダイジェスト（2）イエス・キリストの生涯</p> <p>第8回：新約聖書ダイジェスト（3）イエス・キリストの思想</p> <p>第9回：キリスト教史ダイジェスト（1）古代・中世・十字軍</p> <p>第10回：キリスト教史ダイジェスト（2）宗教改革・イギリス宗教改革</p> <p>第11回：キリスト教史ダイジェスト（3）ローマ教皇史</p> <p>第12回：日本キリスト教史ダイジェスト</p> <p>第13回：キリスト教思想（1）原罪論</p> <p>第14回：キリスト教思想（2）贖罪論</p> <p>第15回：まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	筆記試験70%、レポート等平常点30%
履修上の注意 Requirements and policy	本講義は、大学生としての常識的なマナーが備わっている学生に対して開かれています。当然ながら、講義中の甚だしく騒がしい私語、携帯電話の通話、メールの送受信、飲食、立ち歩きなどは論外です。著しく問題行動のある場合は減点の対象とします。なお、合格には2/3以上の出席が必要となります。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。『聖書』の購入については、初回の講義において説明します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キリスト教とは何か</p> <p>第3回 イエスの十字架と復活：キリスト教の核</p> <p>第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人</p> <p>第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教</p> <p>第6回 イエスを知るには：福音書について</p> <p>第7回 イエスの誕生（1）</p> <p>第8回 イエスの誕生（2）</p> <p>第9回 公生涯の始まり</p> <p>第10回 イエスの教え：山上の説教（1）</p> <p>第11回 イエスの教え：山上の説教（2）</p> <p>第12回 喩え話と癒しの奇跡</p> <p>第13回 イエスはどのように十字架にかけられたか？</p> <p>第14回 イエスの復活とキリスト教の誕生</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会）</p> <p>☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キリスト教とは何か</p> <p>第3回 イエスの十字架と復活：キリスト教の核</p> <p>第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人</p> <p>第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教</p> <p>第6回 イエスを知るには：福音書について</p> <p>第7回 イエスの誕生（1）</p> <p>第8回 イエスの誕生（2）</p> <p>第9回 公生涯の始まり</p> <p>第10回 イエスの教え：山上の説教（1）</p> <p>第11回 イエスの教え：山上の説教（2）</p> <p>第12回 喩え話と癒しの奇跡</p> <p>第13回 イエスはどのように十字架にかけられたか？</p> <p>第14回 イエスの復活とキリスト教の誕生</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会）</p> <p>☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キリスト教とは何か</p> <p>第3回 イエスの十字架と復活：キリスト教の核</p> <p>第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人</p> <p>第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教</p> <p>第6回 イエスを知るには：福音書について</p> <p>第7回 イエスの誕生（1）</p> <p>第8回 イエスの誕生（2）</p> <p>第9回 公生涯の始まり</p> <p>第10回 イエスの教え：山上の説教（1）</p> <p>第11回 イエスの教え：山上の説教（2）</p> <p>第12回 喩え話と癒しの奇跡</p> <p>第13回 イエスはどのように十字架にかけられたか？</p> <p>第14回 イエスの復活とキリスト教の誕生</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会）</p> <p>☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キリスト教とは何か</p> <p>第3回 イエスの十字架と復活：キリスト教の核</p> <p>第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人</p> <p>第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教</p> <p>第6回 イエスを知るには：福音書について</p> <p>第7回 イエスの誕生（1）</p> <p>第8回 イエスの誕生（2）</p> <p>第9回 公生涯の始まり</p> <p>第10回 イエスの教え：山上の説教（1）</p> <p>第11回 イエスの教え：山上の説教（2）</p> <p>第12回 喩え話と癒しの奇跡</p> <p>第13回 イエスはどのように十字架にかけられたか？</p> <p>第14回 イエスの復活とキリスト教の誕生</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会）</p> <p>☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キリスト教とは何か</p> <p>第3回 イエスの十字架と復活：キリスト教の核</p> <p>第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人</p> <p>第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教</p> <p>第6回 イエスを知るには：福音書について</p> <p>第7回 イエスの誕生（1）</p> <p>第8回 イエスの誕生（2）</p> <p>第9回 公生涯の始まり</p> <p>第10回 イエスの教え：山上の説教（1）</p> <p>第11回 イエスの教え：山上の説教（2）</p> <p>第12回 喩え話と癒しの奇跡</p> <p>第13回 イエスはどのように十字架にかけられたか？</p> <p>第14回 イエスの復活とキリスト教の誕生</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会）</p> <p>☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キリスト教とは何か</p> <p>第3回 イエスの十字架と復活：キリスト教の核</p> <p>第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人</p> <p>第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教</p> <p>第6回 イエスを知るには：福音書について</p> <p>第7回 イエスの誕生（1）</p> <p>第8回 イエスの誕生（2）</p> <p>第9回 公生涯の始まり</p> <p>第10回 イエスの教え：山上の説教（1）</p> <p>第11回 イエスの教え：山上の説教（2）</p> <p>第12回 喩え話と癒しの奇跡</p> <p>第13回 イエスはどのように十字架にかけられたか？</p> <p>第14回 イエスの復活とキリスト教の誕生</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会）</p> <p>☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キリスト教とは何か</p> <p>第3回 イエスの十字架と復活：キリスト教の核</p> <p>第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人</p> <p>第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教</p> <p>第6回 イエスを知るには：福音書について</p> <p>第7回 イエスの誕生（1）</p> <p>第8回 イエスの誕生（2）</p> <p>第9回 公生涯の始まり</p> <p>第10回 イエスの教え：山上の説教（1）</p> <p>第11回 イエスの教え：山上の説教（2）</p> <p>第12回 喩え話と癒しの奇跡</p> <p>第13回 イエスはどのように十字架にかけられたか？</p> <p>第14回 イエスの復活とキリスト教の誕生</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会）</p> <p>☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-10/キリスト教史II/（歴史と文化）						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ：宗教国家アメリカの形成と発展】</p> <p>本講義では、キリスト教史の観点から、アメリカの歴史（建国事情から現代まで）と文化を読み解きます。また、アメリカの時事問題についても言及し、受講生に読解の手がかりを与えます。到達目標は、宗教国家という観点から、アメリカの本質を知ることです。到達目標は、講義を通してアメリカの特徴を知り、日米関係の在り方を考察できるようになることです。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：アメリカ・キリスト教史（1）宗教国家アメリカの胎動</p> <p>第3回：アメリカ・キリスト教史（2）ピルグリム・ファーザーズ</p> <p>第4回：アメリカ・キリスト教史（3）大覚醒</p> <p>第5回：アメリカ・キリスト教史（4）マニフェスト・ディスティニー</p> <p>第6回：アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論（1）文化と宗教</p> <p>第7回：アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論（2）キリスト教とデモクラシー</p> <p>第8回：アメリカの選民思想</p> <p>第9回：アメリカのキリスト教原理主義（1）モンキートライアル</p> <p>第10回：アメリカのキリスト教原理主義（2）妊娠中絶・同性愛の問題</p> <p>第11回：大統領とキリスト教（1）政策と宗教</p> <p>第12回：大統領とキリスト教（2）選挙と宗教</p> <p>第13回：アメリカの国家戦略とロビイスト</p> <p>第14回：未来予想図—日米関係の展望</p> <p>第15回：まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	筆記試験70%、レポート等平常点30%
履修上の注意 Requirements and policy	本講義は、大学生としての常識的なマナーが備わっている学生に対して開かれています。当然ながら、講義中の甚だしく騒がしい私語、携帯電話の通話、メールの送受信、飲食、立ち歩きなどは論外です。著しく問題行動のある場合は減点の対象とします。なお、合格には2/3以上の出席が必要となります。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-11/キリスト教と文化4/（歴史と文化）						
担当教員	竹田 文彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	1549年、フランシスコ・ザビエルの宣教に始まるキリシタンの歴史は、キリスト教という西欧の宗教と極東の国日本との出会いであると同時に、厳しい弾圧と迫害の歴史であった。キリシタンのある者は殉教し、ある者は信仰を隠しながら守り抜こうとし、また、ある者は禁制に耐えかねて棄教者となっていった。本講座は、このキリシタン史をより広く世界的視点から位置づけるとともに、それが近代日本の精神史に与えた影響について考察することを目的としている。
授業計画 Syllabus	<p>テーマ：日本キリシタン史 - 迫害と弾圧、そして再発見の物語</p> <p>第1回 序 - キリシタン史を理解するために 第2回 キリスト教の日本布教の背景としての世界史的状况 第3回 フランシスコ・ザビエルの日本布教 - キリスト教と日本の最初の出会い 第4回 ザビエルの志を受け継いだ人々 - イエズ会宣教師たちの宣教方針 第5回 信長時代のキリシタン 第6回 天正遣欧少年使節団 第7回 秀吉と伴天連追放令 第8回 二十六聖人の殉教 第9回 徳川幕府による禁教体制の確立 第10回 島原の乱 第11回 潜伏のキリシタン 第12回 開国と大浦天主堂におけるキリシタン信徒発見 第13回 明治政府による迫害の継続と浦上四番崩れ 第14回 近代日本とキリスト教 第15回 キリシタンの残した物 - 茶道とミサ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式が主だが、授業中にキリシタン史に関するビデオなどを見てもらい、リアクション・ペーパーを書いてもらうこともある。
評価方法 Evaluation	学期末のレポートと出席の状況、ならびにリアクション・ペーパーなどの平常点を総合して評価する。最低でも3分の2以上の出席が必要。学期末レポートは、キリシタン史における主要な人物や重要な出来事について調べてレポートにまとめるか、あるいは、キリシタン史を背景とする文学作品を読んで感想文を書いてもらう。
履修上の注意 Requirements and policy	取り扱う主題について主体的な関心を抱いて講座に参加して欲しい。また授業の一環ではないが、より身近にキリシタンのことを感じてもらうために畿内(京都市、茨木市、高槻市、長岡京市など)にも多く残っているキリシタン史跡やキリシタン資料館への訪問などを強く勧める。
教科書 Textbook(s)	結城了悟 『ザビエルからはじまった日本の教会の歴史』 女子パウロ会 ISBN: 978-4-7896-0659-2。
参考書 Reference(s)	長崎県企画 『旅する長崎学 キリシタン文化(五分冊)』 長崎文献社 ISBN: 978-4-88851-115-2。 五野井隆史 『日本キリスト教史』 吉川弘文館 ISBN: 978-4-64207-287-8。 海老沢有道 『日本キリシタン史』 塙書房 ISBN: 978-4-8273-3552-4。 川崎桃太 『フロイスの見た戦国日本』 中公文庫 ISBN: 4-12-204655-6。 ルイス・フロイス 『日本二十六聖人殉教記』 結城了訳 聖母の騎士社 ISBN: 978-4-882-16154-7。 山本博文 『殉教 - 日本人は何を信仰したか』 光文社新書 ISBN: 978-4-334-03532-7。 片岡弥吉 『浦上四番崩れ - 明治政府のキリシタン弾圧』 ちくま文庫 ISBN: 978-4-480-02535-7。
備考 Remarks	必要な資料は、教室でコピーを配布する。

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-12／キリスト教と文化5／（歴史と文化）						
担当教員	日野 謙一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本の近代化の中での宗教の役割、宗教意識に内在する自己、社会、世界の関係、そのなかでのキリスト教の課題について考えてみたいと思っている。講義では、日常生活で行われている宗教儀礼、生活に内在する生死観、様々な問題を抱えて「境界」の中に生きている人びとの世界観や生き方にふれるなど、これらを通して、生活世界の内に潜む宗教意識を探っていきたいと思う。
授業計画 Syllabus	第1回 オリエンテーション 第2回 「宗教」についての考え方 第3回 宗教と文化 第4回 日常生活と宗教（ワーク） 第5回 日常生活と宗教（ワーク） 第6回 日常生活と宗教（ワーク） 第7回 「境界」を生きる（いのち、そんざいに向く人びとの声を聞く） 第8回 「境界」を生きる 第9回 「境界」を生きる 第10回 「境界」を生きる 第11回 儀礼と境界 第12回 近代日本と宗教意識 第13回 近代日本と宗教意識 第14回 日常に内在する思惟様式の課題 第15回 授業を通して
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式、参加形式、を組み合わせ、行う。
評価方法 Evaluation	平常点（中間レポート等）30%、期末レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	授業中のレポートの提出があるので注意。平常点に組み込んでいく。
教科書 Textbook(s)	使用しない。
参考書 Reference(s)	マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神（上下）』岩波書店 浜谷正春著『原爆体験』岩波書店 キューブラ・ロス『死ぬ瞬間』読売新聞社 安丸良夫『神々の明治維新』岩波書店 武田清子『土着と背教』新教出版
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-13／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教世界から世界キリスト教へ</p> <p>長い間ヨーロッパ中心に発展してきたキリスト教は、近代の海外宣教運動の結果、世界各地に根を下ろし、今や文字通りの「世界宗教」となりました。このようなグローバル化により、キリスト教の重心は今日西洋から非西洋世界にシフトし、半世紀前までは欧米「キリスト教世界」の宗教であったキリスト教に代わり「世界キリスト教」が出現しつつあるとされています。本講座では、このようなキリスト教のグローバル化現象を、主に歴史的・異文化間的観点から考察することによってキリスト教の現在への理解を深めます。</p> <p>全体は3つの部分に別れます。第1部では、ヨーロッパから生まれた主要キリスト教諸伝統について概観します。教派の違いや歴史に関する知識は現代のキリスト教の理解に不可欠だからです。第2部では、キリスト教のグローバル化において重要な役割を演じた海外宣教運動の歴史を学びます。第3部では、キリスト教が日本にどのようにもたらされたかを考えます。西欧の諸教派だけでなく、ロシア正教も取り上げて日本のキリスト教の多様性に目を向けたいと思います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>■序論 第1週 キリスト教のグローバル化と私たち</p> <p>■西洋のキリスト教 第2週 ローマ・カトリックと東方正教 第3週 プロテスタント諸教派 第4週 英国系のキリスト教 第5週 福音派とペンテコステ派</p> <p>■キリスト教世界を越えて 第6週 近代海外宣教運動の始まり（1）：ローマ・カトリック 第7週 近代海外宣教運動の始まり（2）：プロテスタント 第8週 近代プロテスタントの海外宣教運動（1）：モラヴィア派 第9週 近代プロテスタントの海外宣教運動（2）：アングリカン</p> <p>■日本とキリスト教 第10週 日本のキリスト教受容：16世紀 第11週 日本のキリスト教受容：19世紀 第12週 ロシア正教と日本 第13週 宣教師たちのもたらしたもの</p> <p>■まとめ 第14週 グローバル化するキリスト教：世界キリスト教の出現 第15週 結語</p> <p>注意：以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。詳細は初回の授業で説明します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。なお、私語などによって他の履修者に迷惑をかけることを意に介しない学生は履修を遠慮していただきます。

教科書 Textbook (s)	教科書はありません。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-14／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	近藤 剛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ：欧米社会・文化とキリスト教】</p> <p>世界情勢を語る上で、欧米の動向は決定的な意味を持っており、触れないわけにはいきません。グローバル・スタンダードの構築に指導的な役割を果たしてきた欧米文化の形成には、聖書からの影響が少なからず見受けられます。例えば、デモクラシーや資本主義といった欧米的システムの根幹にも、聖書の思想が反映されています。本講義では、欧米の思考パターンを聖書の思想との関連で解説し、その視点から世界情勢を読み解いていきます。適宜、テーマに関係するキリスト教文化（歳時記、文学、世界遺産など）、時事問題、映画評論なども取り上げる予定です。様々な事例を通して現代社会におけるキリスト教の意味を考察するのが目的です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：聖書と世界戦略（1）パレスチナ問題の真相の深層 前編</p> <p>第3回：聖書と世界戦略（2）パレスチナ問題の真相の深層 後編</p> <p>第4回：聖書と世界戦略（3）一神教のストラテジー</p> <p>第5回：聖書と世界戦略（4）十字軍のイデオロギー</p> <p>第6回：聖書と世界戦略（5）聖戦の理念と平和の神学</p> <p>第7回：キリスト教と近代（1）宗教的寛容と信教の自由 前編</p> <p>第8回：キリスト教と近代（2）宗教的寛容と信教の自由 後編</p> <p>第9回：キリスト教と近代（3）デモクラシーの神学的解題</p> <p>第10回：キリスト教と近代（4）資本主義の神学的解題</p> <p>第11回：キリスト教文化の諸相（1）世界遺産エルサレム物語</p> <p>第12回：キリスト教文化の諸相（2）世界遺産パチカン物語</p> <p>第13回：キリスト教文化の諸相（3）天国と地獄—ダンテ『神曲』の世界観</p> <p>第14回：キリスト教文化の諸相（4）天使と悪魔</p> <p>第15回：まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	筆記試験70%、レポート等平常点30%
履修上の注意 Requirements and policy	本講義は、大学生としての常識的なマナーが備わっている学生に対して開かれています。当然ながら、講義中の甚だしく騒がしい私語、携帯電話の通話、メールの送受信、飲食、立ち歩きなどは論外です。著しく問題行動のある場合は減点の対象とします。なお、合格には2/3以上の出席が必要となります。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-15／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	市川 哲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「キリスト教学II」は、概論である「キリスト教学I」の先にある選択科目として、さらに詳しいキリスト教の内容を学ぶ学生を対象に開講されています。この講義では、現代社会の中でキリスト教が果たしている役割や、あるいは強く求められている責任について論じます。また今期の講義においては特に、昨年COP10（生物多様性条約第10回締結国会議）が名古屋において開かれ、生物多様性保全の大切さが社会的に強く意識されている状況の中で、「いのち」と本来強くかかわっているキリスト教と「生命科学」という生物学的な世界の関係性の重要性について時間を多く割き、論議を深めたいと考えています。</p> <p>この講義の中で扱う内容として、以下の4点が挙げられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① キリスト教と「生命科学」の関係は、進化論論争など、キリスト教の側の問題性が目立つところがある。「生物」や「環境」について丁寧に論じつつ、キリスト教の果たすべきあり方を考える。 ② 社会の中の差別の諸問題、あるいは近代史の中での重要な問題について、キリスト教との関わりが深いいくつかの課題について取り上げる。 ③ 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。 ④ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。
授業計画 Syllabus	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行ないます。</p> <p>第1回 生命科学とキリスト教I 進化をめぐって 第2回 生命科学とキリスト教II 食べることをめぐって 第3回 生命科学とキリスト教III 新しい生命技術と生命倫理 第4回 生命科学とキリスト教IV 環境問題をめぐって 第5回 生命科学とキリスト教V 「生物多様性」という世界 第6回 生命科学とキリスト教VI ウイルスという隣人 第7回 キリスト教は性差別を克服できるか 第8回 セクシュアル・マイノリティ差別からの解放 第9回 部落差別とキリスト教社会運動 第10回 アイヌ差別との戦い 第11回 イスラム教とは 第12回 イスラム世界の絶望とキリスト教の分裂 第13回 キリスト教が反ナチス運動から学んだこと 第14回 脱原発・護憲運動と宗教間対話 第15回 破壊的カルトについて</p> <p>この講義は全く新しい分野を含むものであり、受講生の反応を受けて内容を検討しながら進めていきたいと考えています。また自然災害をはじめ社会的に大きな事件が生じることがあれば、講義で扱う可能性もあります。そのため、場合によっては内容を大幅に変更することもあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合があります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>Iを受講された学生は、基本的に評価の仕方が同じと考えてもらって良いと思います。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 +α） 期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点） 論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は5月上旬ごろに示します。</p>

<p>評価方法 Evaluation</p>	<p>定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。</p> <p>論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 文献紹介（15点）</p> <p>論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。</p> <p>各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。また、病気・事故等で長期欠席の場合、および災害等の被害を受けた場合は、追加の課題を出すことも含め、特別に考慮します。必要書類等を添えて申し出てください。</p>
<p>履修上の注意 Requirements and policy</p>	<p>この講義においては、高等教育にふさわしい受講態度を求めます。講義に出席しないことを含め、本人の自覚的な判断を尊重します。講義時間中に質問時間はとります。なお、講義の妨害になる行為は禁止します。具体的には、</p> <p>私語、飲食、携帯電話（メール含む）、化粧、みだりに席を離れまた早退すること</p> <p>これらについて、注意しても態度を改めない場合、教室からの退席を求め、成績の減点をすることもあります。注意してください。</p>
<p>教科書 Textbook(s)</p>	<p>『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編なし）を購入してください。</p>
<p>参考書 Reference(s)</p>	<p>参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。</p>
<p>備考 Remarks</p>	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-17／キリスト教学II／（キリスト教と諸宗教）						
担当教員	日野 謙一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	宗教運動と弾圧について考える 歴史過程において、新たな思想や宗教の世界観が人々（民衆）の心を動かし、社会の変動へと向かう活動や運動となつて、現実の社会に大きな影響を与えた出来事が多くある。それらの運動は、時代を先取りしているために、権力者から弾圧されてきた。講義では、日本の歴史過程のなかで、二つの時期、中世から近世にかけての、キリスト教と浄土真宗の動向と弾圧、近代のキリスト教と他宗教の動向と弾圧を取り上げたいと思う。
授業計画 Syllabus	第1回 オリエンテーション 第2回 「民衆」の生活史を考える 第3回 「千年王国」論と「ミロク」信仰 第4回 中世期における宗教 第5回 中世期における諸宗教と弾圧 第6回 中世期における諸宗教と弾圧 第7回 中世期におけるキリスト教と弾圧 第8回 中世期におけるキリスト教と弾圧 第9回 近代日本における民衆の生活と宗教 第10回 近代日本における国家と宗教 第11回 近代日本におけるキリスト教の動向と弾圧 第12回 近代日本におけるキリスト教の動向と弾圧 第13回 近代日本における他宗教の動向と弾圧 第14回 近代日本における他宗教の動向と弾圧 第15回 授業を通して
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式、プリント等を使用する
評価方法 Evaluation	平常点（30％）、期末レポート（70％）
履修上の注意 Requirements and policy	歴史的な課題を扱うことになる。興味のある人は参加してください。
教科書 Textbook(s)	使用しない
参考書 Reference(s)	海老沢・大内共著『日本基督教史』日本基督教団出版局 網野善彦『無縁・公界・楽』平凡社 神田千里『島原の乱』中公新書 笠原一男『一向一揆』評論社 小池他編『宗教弾圧を語る』岩波新書
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-18／キリスト教学II／（キリスト教と諸宗教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】多元世界におけるキリスト教と諸宗教</p> <p>20世紀後半、世界は著しく小さくなり、世界の諸宗教が相互に接する機会が多くなりました。一世代前、世界の宗教は近代化・世俗化の進行と共に消滅すると考えられていましたが、21世紀の今日、世界において諸宗教の演じる役割は、良きにつけ悪しきにつけ増大しています。私たちは今や宗教的な多元世界に住んでいるのです。</p> <p>キリスト教はイエス・キリストこそが救いに至る唯一の道であり、イエス・キリストを信じる信仰によってのみ人は救われると教えてきました。しかし、今日状況にはこのような伝統的な理解では対応しきれず、他宗教をいかに理解し、いかに共存していくかを問う直すことがキリスト教にとっても大きな課題となっています。「諸宗教の理解なしに真のキリスト教理解はありえない」とさえ言われるほどです。本講座では、このような問題意識に基づいて、キリスト教と諸宗教の関わりを様々な角度から考察し、その両者についての理解の深めていきたいと思えます。</p> <p>特に、イスラム教とヒンドゥー教を例として取り上げますが、これらはキリスト教と共に信徒数の点で世界の三大宗教をなしています。これらを学ぶことを通して、私たちの生きる「地球村」に対する理解を深めることもこの講座の目的です。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間と宗教</p> <p>第3回 聖書の宗教観（1）：旧約聖書</p> <p>第4回 聖書の宗教観（2）：新約聖書</p> <p>第5回 古代世界におけるキリスト教</p> <p>第6回 諸宗教を考えるにあたって：宗教的原理主義の問題</p> <p>第7回 イスラムとキリスト教（1）：イスラム教の起源と特徴</p> <p>第8回 イスラムとキリスト教（2）：歴史における両者の関わり</p> <p>第9回 イスラムとキリスト教（3）：キリスト教のイスラム理解</p> <p>第10回 インドの宗教（1）：ヒンドゥー教の起源と特徴</p> <p>第11回 インドの宗教（2）：ヒンドゥー教の神々</p> <p>第12回 インドの宗教（3）：インド宗教とキリスト教を比較する</p> <p>第13回 インドの宗教（4）：インドのキリスト教</p> <p>第14回 現代キリスト教の他宗教理解：その類型と宗教間の対話</p> <p>第15回 まとめ（レポート提出ないし試験実施日）</p> <p>※以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。</p>						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式						
評価方法 Evaluation	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。詳しくは初回の授業で説明します。						
履修上の注意 Requirements and policy	初回の授業にて評価方法や出席の取り方なども含めた履修上の注意を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。また、私語などによって他の履修者に迷惑をかけることを意に介しない学生は履修を遠慮していただきます。						
教科書 Textbook(s)	特にありません。						

参考書 Reference(s)	必要に応じて紹介します。また、プリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-3／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	小林 昭博						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的 現代世界の課題に触れながら新約聖書を読む。</p> <p>授業の概要 新約聖書はキリスト教の経典であると同時に、古今東西の古典の中の古典でもあります。したがって、新約聖書はキリスト教徒が信仰を前提として読む宗教の経典（正典）であると同時に、現代を生きるわたしたちがその進む方向性を模索するときに繙く人類の遺産でもあるのです。むろん今から二千年前に書かれた新約聖書が現代世界の直面する課題に直接解答を与えてくれるとは限らないのですが、そこには現代に固有の課題に対しても重要な示唆を与えてくれる古典が持つ深みが潜んでいるのです。授業では、ジェンダー、環境問題、生命倫理、いじめ、プロレス、セクシュアリティ、戦争と平和、現代思想などの課題を取り上げます。一緒に現代世界の様々な課題を考え、新約聖書という古典の深い味わいに触れることができると考えています。なお本授業は新約聖書学の授業として位置づけられてはいますが、同一担当者の「キリスト教学II-4」とは異なり、現代世界の課題に比重を置きつつ、関連する新約聖書テキストを読むという内容になりますので、「聖書は難しそう」と考える学生も安心して受講できます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>本授業は下記の要領で15回の授業を実施します。授業計画は下記の通りです。</p> <p>1回目 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、レポート、聖書の引き方等に関する説明。</p> <p>2回目 ジェンダーと新約聖書 ジェンダー論、女性学と男性学、神のジェンダーをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>3回目 結婚・非婚と新約聖書 結婚・非婚、性的役割をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>4回目 デートDVと新約聖書 デートDVとジェンダー・ヴァイオレンス、DVをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>5回目 トランスジェンダーと新約聖書 トランスジェンダーと性同一性障害、トランスジェンダーをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>6回目 環境問題と新約聖書 エコロジー、環境問題と経済の関係、エコロジーをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>7回目 脳死・臓器移植と新約聖書 生命倫理、脳死、臓器移植、生命をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>8回目 終末期医療と新約聖書 終末期医療、ホスピス、終末期医療と来世信仰、死をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>9回目 いじめと新約聖書 いじめの現状、教育現場といじめ、いじめをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>10回目 プロレスと新約聖書 プロレスと格闘技、リングと人生、プロレスをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>11回目 異性愛と新約聖書 セクシュアリティ研究、異性愛（異性間恋愛）をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>12回目 同性愛と新約聖書 クィア・スタディーズ、同性愛（同性間恋愛）をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>13回目 平和・戦争と新約聖書 基地問題と沖縄・日本、平和・戦争をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>14回目 現代思想と新約聖書 エマニュエル・レヴィナスとジャック・デリダ、イエス受難物語における責任＝応答可能性。</p> <p>15回目 現代世界の課題に触れながら新約聖書を読む 授業の総まとめ。提出レポートに対するフィードバック。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>授業は講義形式によって進めます。まず担当者が現代世界の課題を丁寧に説明した上で、その課題に関連する新約聖書の諸テキストを取り上げ、そのテキストの「読み」（解釈）をしていきます。そして担当者の側から学問的に必要不可欠な情報を伝達し、その上で受講者からの質問や意見を聞き、さらに専門的な議論をしていきたいと考えています。どんな小さなことで構いませんので、受講者のみなさんは授業中</p>						

授業方法 Class type	に抱いた疑問や意見をその都度積極的に表明してください。
評価方法 Evaluation	<p>レポート提出資格 原則として、3分の2以上の出席が必要となります。したがって、5回以上欠席した場合にはレポート提出資格を失うと考えてください。遅刻および早退は2回で欠席1回に数えますので、各自出席状況をしっかりと把握しておいてください。なお、欠席および遅刻と早退は、評価のさいそれぞれ減点対象になりますので、注意してください。また、欠席に関する諸事情については考慮しますので、出席状況について遠慮なく担当者にお尋ねください。</p> <p>評価方法 学期末のレポート評価を基本としつつ、そこに通常評価を加味して総合的に成績を評価します。レポート評価とは、学期末に指定された課題に基づくレポートを提出してもらい、その内容に基づいてなされる評価であり、通常評価とは、出席状況や授業態度、授業への積極的な参加状況などに基づく評価を指します。評価の配分は「レポート評価70%」「通常評価30%」とします。</p> <p>レポート 提出期限：決定次第教務課および担当者からお知らせします。 提出場所：教務課（提出期限後は受け付けできませんので、期限を厳守してください）。 書式：パソコン（ワープロソフト）を用いてください。パソコンを使わない人は手書きで結構です。 字数：2,000字程度。 課題：授業で扱う課題から主題を選び、その課題を論じた上で、その課題と関連する新約聖書テキスト（単一でも複数のテキストでも可）の理解を、学問的かつ実践的に論じてください。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業に聖書を必ず持参してください。本授業は聖書の授業であり、聖書が教科書となりますので、聖書を持たないで授業に出席することは厳禁です。 2. 授業における聖書の朗読や意見の表明は、授業への積極的な参加と見なし、加点しますので、積極的に授業に参加してください。人前で話しをするのが苦手な人もいるとは思いますが、受動的に授業に出席するのではなく、積極的に授業に参加して下さることを期待しています。
教科書 Textbook(s)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 授業では新約聖書テキストを中心に読んでいきますが、必要に応じて旧約聖書テキストをも読みますので、旧約聖書と新約聖書が一冊になった聖書が必要となります。一年生のときに聖書を購入しているはずですから、上記に掲げた聖書以外でも結構ですので、すでに持っている聖書を持参してください。ただし、新約聖書のみでの版の聖書しか持っていない学生に関しては、上記の聖書を入手してください。 2. 配布プリント（レジュメ）。 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。
参考書 Reference(s)	毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。参考文献（参考書）とは、そのときの授業の内容に関してさらに進んで学ぶために読むものですので、興味のある課題や書物については、その都度入手するか大学図書館で借りて読むなどしてください。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-4/キリスト教学II/（聖書）						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的 イエスの生涯を知る—イエスの振る舞いと言葉に触れる。</p> <p>授業の概要 本授業は、福音書を精読することを通して「イエスの生涯を知る」こと、すなわち「イエスの振る舞いと言葉に触れる」ことを目的としています。ですから、同一担当者の「キリスト教学II-3」とは異なり、新約聖書そのものを丁寧かつ厳密に読んでいきます。したがって、新約聖書を読んでみたい、新約聖書を知りたいと考えている学生やイエスがどのような人物であり、どのようなことを行ったり教えたりしたのかを知りたいと考えている学生を受講者として想定しています。聖書を読むことに慣れていないと、最初は少し難しく感じるかもしれませんが、慣れてくれば、聖書を読む上でのコツをつかむこともできますし、特に福音書は小説を読むように親しく接することのできる文書ですので、「聖書は難しくよく分からないから」と感じている学生にも履修してもらいたいと思っています。本学においてキリスト教を学ぶ機会を得た学生のみならず、イエスの振る舞いと言葉に触れる経験をしてもらえたらと願っています。なお新約聖書学は歴史学や文献学としても最も精緻に研究されている分野ですので、歴史学や文献学に関係する分野を専攻する学生には、<u>歴史学や文献学の研究の方法（方法論）</u>を学ぶ機会にもなると思います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>本授業は下記の要領で15回の授業を実施します。授業計画は下記の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、レポート、聖書の引き方等の説明。 2回目 福音書研究の現状 正典四福音書の思想と特質、共観福音書問題、第四福音書。 3回目 奇跡行為者イエス1（マルコ1：21-28） 奇跡物語、ヌミノーゼ感情、悪霊祓い、精神疾患に対する蔑視。 4回目 奇跡行為者イエス2（ヨハネ9：1-12） 病気治癒、病と迷信、病理学的疾病と社会文化的病気。 5回目 宗教とタブー1（マルコ2：13-17//マタイ9：9-13//ルカ5：27-32） 罪人との食事、誰と共に食事をするか？ 食卓仲間の問題。 6回目 宗教とタブー2（マルコ2：23-28） 安息日論争、主役は人間か宗教か？ 7回目 イエスの家族（マルコ3：20-21、3：31-35） 家族は敵か味方か？ 家族とは誰か？ 神の家族とは？ 8回目 イエスと十二弟子（マルコ3：13-19//マタイ10：1-4//ルカ6：12-16、マルコ10：35-45） 十二弟子と十二使徒。十二弟子はイエスの理解者だったか？ 9回目 イエスの教え1（ルカ6：20-23//マタイ5：3-12） 山上の説教、貧しい者は幸いか？ 心の貧しい者は幸いか？ 10回目 イエスの教え2（ルカ10：25-37） 善きサマリヤ人の譬、ユダヤ人とサマリヤ人、隣人愛と遠人愛、隣人とは誰か？ 11回目 イエスの出生の秘密？（マタイ2：1-12、ルカ2：1-20） クリスマスのない福音書、二つのクリスマス物語、クリスマス物語を読む。 12回目 イエスの恋愛（マルコ14：3-9、ヨハネ13：23-25、20：11-18、トマス114） イエスをめぐる女性たち、イエスの愛した男弟子、マグダラのマリアとイエス。 13回目 イエスと暴力（マルコ11：15-19//マタイ21：12-17//ルカ19：45-48//ヨハネ2：13-22） 宮清め、イエスの暴力、イエスの弟子と暴力。 14回目 イエスの十字架死（マルコ15：33-41//マタイ27：45-56//ルカ23：44-49//ヨハネ9：28-31） イエスの死と断末魔の絶叫に関する共観福音書間での差異とイエスの死に関する理解。 15回目 イエスの生涯を知る—イエスの振る舞いと言葉に触れる。 授業の総まとめ。提出レポートに対するフィードバック。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>授業は講義形式によって進めます。まず担当者が福音書のテキストを取り上げ、そのテキストを歴史的・文献学的に論じ、担当者の視点からそのテキストが持つ意味を明らかにし、さらにイエスの振る舞いや言葉をローマ帝国支配下のパレスティナに社会史的に位置づけます。このように、担当者から学問的に必要不可欠な情報を受講者に伝達し、その上で受講者から質問や意見を聞き、必要な議論をして</p>

<p>授業方法 Class type</p>	<p>いきたいと考えています。一見難しそうに思える授業かもしれませんが、受講者に必要なことは、授業中に抱いた疑問や意見などを率直に言葉に表し、上手く言葉では言い表せないことを何とか担当者や他の受講者に伝える努力をすることです。学生と教員とが向かい合うだけでなく、学生と学生とが向かい合い、互いの疑問、意見、考え、感想を出し合える授業にできればと願っています。</p>
<p>評価方法 Evaluation</p>	<p>レポート提出資格 原則として、3分の2以上の出席が必要となります。したがって、5回以上欠席した場合にはレポート提出資格を失うと考えてください。遅刻および早退は2回で欠席1回に数えますので、各自出席状をしっかりと把握しておいてください。なお、欠席および遅刻と早退は、評価のさいそれぞれ減点対象になりますので、注意してください。また、欠席に関する諸事情については考慮しますので、出席状況についても遠慮なく担当者にお尋ねください。</p> <p>評価方法 学期末のレポート評価を基本としつつ、そこに通常評価を加味して総合的に成績を評価します。レポート評価とは、学期末に指定された課題に基づくレポートを提出してもらい、その内容に基づいてなされる評価であり、通常評価とは、授業態度や授業への積極的な参加状況などに基づく評価を指します。評価の配分は「レポート評価70%」「通常評価30%」とします。</p> <p>レポート 提出期限：決定次第教務課および担当者からお知らせします。 提出場所：教務課（提出期限後は受け付けできませんので、期限を厳守してください）。 書式：パソコン（ワープロソフト）を用いてください。パソコンを使わない人は手書きで構いません。 字数：2,000字程度。 課題：授業で扱う福音書テキストから興味あるテキストの一つを選び（複数のテキストでも構いません）、そのテキストを論じ、そこで自分自身が感じたこと、思ったこと、また意見などを記してください。特にイエスの生涯を知り、イエスの振る舞いや言葉と出会い、自分がどのように考え、どのように感じたのか、イエスとの出会いが自分にとってどういう意味を持つのかなどに言及してください。なお、受講者の専攻する分野に引きつけた論述になっても構いませんので、自由な議論を展開してください。</p>
<p>履修上の注意 Requirements and policy</p>	<p>1. 毎回の授業に聖書を必ず持参してください。本授業は聖書の授業であり、聖書が教科書となりますので、聖書を持たないで授業に出席することは厳禁です。</p> <p>2. 授業における聖書の朗読や意見の表明は、授業への積極的な参加と見なし、加点しますので、積極的に授業に参加してください。人前で話しをするのが苦手な人もいるとは思いますが、受動的に授業に出席するのではなく、積極的に授業に参加して下さることを期待しています。</p>
<p>教科書 Textbook(s)</p>	<p>1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 授業では新約聖書テキストを中心に読んでいきますが、必要に応じて旧約聖書テキストをも読みますので、旧約聖書と新約聖書が一冊になった聖書が必要となります。一年生のときに聖書を購入しているはずですから、上記に掲げた聖書以外でも結構ですので、すでに持っている聖書を持参してください。ただし、新約聖書のみ版しか持っていない学生は、上記の聖書を予め用意して授業に臨んでください。</p> <p>2. 配布プリント（レジュメ）。 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。</p>
<p>参考書 Reference(s)</p>	<p>毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。参考文献（参考書）とは、そのときの授業の内容に関してさらに進んで学ぶために読むものですので、興味のある課題や書物については、その都度入手するか大学図書館で借りて読むなどしてください。</p>
<p>備考 Remarks</p>	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-5／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	堀川 敏寛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	本授業では、キリスト教学における旧約聖書の「預言書」に焦点を当てた講義を行う。旧約聖書における諸々の預言者がどういった人物であり、聖書の世界でどのような役割を果たしたのかについて理解を深めたい。その際、預言者が活躍した聖書の時代背景や地理的状况を参照することで、彼らのメッセージの力点を浮き彫りにする。本講義の最終的な目的は、預言書を軸に、旧約聖書の考えを総合的に深める点にある。						
授業計画 Syllabus	第1回オリエンテーション。授業の流れと方向性の提示 第2回日常と非日常。それらを媒介する存在 第3回創世記における天使の役割 第4回出エジプト記におけるモーセの役割 第5回士師記におけるギデオンとデボラ 第6回サムエル記における王と預言者 第7回バアル崇拜と預言者の闘い 第8回王国分裂とエリヤ、エリシャ 第9回アモスと社会的正義 第10回ホセアと愛 第11回イザヤと神権 第12回エレミヤと聖所の否認 第13回第二イザヤと苦難の僕 第14回預言者のメシア予言と新約聖書への導入 第15回講義のまとめと試験対策						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式						
評価方法 Evaluation	小テストを兼ねた出席点 60% 期末試験 40%						
履修上の注意 Requirements and policy	学期末試験のみでは不合格。通常授業に出席し、そこでの定期的な小テストが不可欠。授業中に私語をするなど、受講態度が悪い者に対しては、大幅な減点を行う。						
教科書 Textbook(s)	指定しない。講義は基本的に黒板の板書によって進める。						
参考書 Reference(s)	授業中に随時紹介する。特別参考書を購入する必要はない。						
備考 Remarks	講義中の私語は厳禁とする。尚、注意をしているにもかかわらず、私語を止めない学生には、単位を出さない。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-6／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	旧約聖書の「知恵文学」を中心とした、文学テキストの解説
授業計画 Syllabus	旧約の中から、箴言、雅歌、知恵の詩篇について学ぶ。知恵的な要素を持つとされる物語などをも取り上げる予定である。詳細は、後期の始まる前に知らせる。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	平常点（数回の小レポート、受講態度など、約40パーセント）および最終回の試験（約60パーセント）を総合して判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回、聖書を持参すること。受講者には特別な予備知識は必要ではないが、聖書を丹念に読む根気が求められる。
教科書 Textbook(s)	聖書（各自、1回生の時に使用したものを用意すればよい）
参考書 Reference(s)	授業の中で指示する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-7/キリスト教と文化2/（キリスト教思想）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】ドストエフスキーとキリスト教</p> <p>ドストエフスキーは、ロシアのみならず近代ヨーロッパを代表するキリスト教作家で、その作品群は、神・自由・悪といった人間にとって重要な問題を扱っています。それはキリスト教の根幹に関わる神学的問いであると同時に、人間の本質に迫る普遍的な問いでもあり、それゆえ、彼の作品は時代や場所を超えて、今日に至るまで広く読まれ続けています。本講義では、最初にロシア社会とロシア・キリスト教の特徴、ドストエフスキーの生涯を概観し、次に『地下室の手記』『罪と罰』を取り上げ、これらの作品においてキリスト教的なモチーフがどのように扱われているかを検討します。『白痴』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』などの他の主要作品にも短く言及するつもりです。こうして、ドストエフスキーという人と作品におけるキリスト教に光を当てつつ、キリスト教信仰の現代的意義について考察することが本講義の目的です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 ドストエフスキーという人</p> <p>第3回 ロシアという国：古代から中世まで</p> <p>第4回 ペテルブルグ時代のロシア</p> <p>第5回 ロシア正教とドストエフスキー</p> <p>第6回 「地下室の手記」：近代合理主義批判</p> <p>第7回 「地下室の手記」：被造物としての人間</p> <p>第8回 「罪と罰」：作品概観</p> <p>第9回 「罪と罰」：反逆する近代人</p> <p>第10回 「罪と罰」：ロシア民衆の神学</p> <p>第11回 「罪と罰」：インマヌエルなる神の知恵</p> <p>第12回 「罪と罰」：苦悩から復活へ</p> <p>第13回 「白痴」：キリストは失敗か？</p> <p>第14回 「悪霊」と「カラマーゾフ」</p> <p>第15回 まとめ：キリスト教の現代的意義</p> <p>※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。また、教科書に使用する『地下室の手記』『罪と罰』は通読してレポートを書いてもらいますので、確実に入手してください。なお、私語などによって他の履修者の学習を妨げることを意に介しない学生は受講を遠慮していただきます。
教科書 Textbook(s)	ドストエフスキー 著「地下室の手記」（新潮文庫）（新潮社） ドストエフスキー 著「罪と罰」（新潮文庫）（新潮社）
参考書 Reference(s)	旧新約聖書 ドストエフスキー著「白痴」「悪霊」「カラマーゾフの兄弟」（翻訳者・出版社は不問） セルノーフ著「ロシア正教会の歴史」（日本キリスト教段出版局） その他、必要に応じて紹介します。

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-8／キリスト教と文化3／（キリスト教思想）						
担当教員	岩野 祐介						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>本講義では、日本文化に表れたキリスト教とその影響について、具体的に文学作品を読みつつ確認・分析し、さらに「宗教と文化」というより大きなテーマへと視野を拡大していくことを目的とする。</p> <p>日本が開国し、キリスト教の禁教が解かれて以来、今日に至るまで約140年が経過している。しかし未だに、キリスト教が日本に根付いたと言えるかどうか、となると難しい。とはいえ、文化的な面に目を向ければ、明治以降日本文化が変化発展していく中でキリスト教が大きな役割を果たしてきたこともまた否定できない。</p> <p>中でも近代日本文学史においては、文体や訳語といった形式的な部分から、内容・主題に至るまで、キリスト教（及びキリスト教に基く思想）の直接的・間接的な影響が随所に見受けられるのである。本講義ではその代表的な例を見ていくことになる。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 この授業に関するガイダンス／日本のキリスト教、という問題設定について</p> <p>第2回 明治以降のキリスト教史概略</p> <p>第3回 日本語とキリスト教／聖書の日本語訳とそれに関わる問題</p> <p>第4回 「宗教と文化」という問題／内村鑑三の文学観</p> <p>第5回 明治期のキリスト教文学／北村透谷</p> <p>第6回 明治期のキリスト教文学／国木田独步</p> <p>第7回 明治期のキリスト教文学／島崎藤村</p> <p>第8回 大正・戦前期のキリスト教文学／芥川龍之介</p> <p>第9回 大正・戦前期のキリスト教文学／有島武郎</p> <p>第10回 大正・戦前期のキリスト教文学／山村暮鳥</p> <p>第11回 大正・戦前期のキリスト教文学／太宰治</p> <p>第12回 戦後期・現代のキリスト教文学／椎名麟三</p> <p>第13回 戦後期・現代のキリスト教文学／伊藤整のキリスト教批判</p> <p>第14回 戦後期・現代のキリスト教文学／遠藤周作</p> <p>第15回 まとめと展望／文化の中のキリスト教</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>授業は基本的に講義形式で行いますが、履修される方は積極的に参加する意識を持って履修してください。また、結構頻繁に授業中に感想文を書いていただくこととなります（平常点に加え）。</p>						
評価方法 Evaluation	<p>レポート60%＋平常点40%（出席、感想文）により評価します。</p> <p>出席回数が規定の回数に満たない場合は、レポートを提出する権利が失われます（単位認定できません）。</p> <p>また、いわゆるコピペによるレポートを提出した場合は、出席回数等とは関係なく、単位を認定しません。インターネット上の文章を参照・引用する場合は、よくよく注意して、必ずurlと閲覧日時を明記しておいて下さい。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史、日本文学史、キリスト教史について、基本を理解しているという前提で授業を進めます。 ・履修する学生の皆さんに対して最大限の敬意を払うつもりではありますが、授業態度が悪い場合は方針を変えるを得ません。 						
教科書 Textbook(s)	特に指定しません。教材は授業中に配布します。						
参考書 Reference(s)	授業の中で随時紹介します。						
備考 Remarks	くれぐれも授業中私語をしないようにしてください。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-9/キリスト教史I/（歴史と文化）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】英国キリスト教史</p> <p>二千年前にパレスチナで生まれたキリスト教は、その後、世界各地に伝えられ、それぞれの地域の社会・政治・文化を大きく変容させると共に、自らも幾多の変容を遂げてきました。この授業では英国のキリスト教を取り上げて、このような歴史的な視点から考察することが目的です。すなわち、キリスト教がどのようにイギリス諸島に伝えられ、どのような歴史を歩み、近代の英国の形成にどのように貢献してきたかを検討していきます。特に、今日の英国を構成する2つの地域イングランドとスコットランドについて、両者の歴史を比較しながら、どうしてそれぞれの地域に異なるタイプのキリスト教（アングリカンと長老主義）が生まれるに至ったかを考えたいと思います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 はじめに：キリスト教の伝播と文脈化</p> <p>第2回 ローマ時代とケルトのキリスト教</p> <p>第3回 聖オーガスティンとローマ系キリスト教の到来</p> <p>第4回 中世イギリスのキリスト教1：イングランド</p> <p>第5回 中世イギリスのキリスト教2：スコットランド</p> <p>第6回 中世の教会刷新運動とウィクリフ</p> <p>第7回 ヘンリー8世とイングランド教会の独立</p> <p>第8回 アングリカニズムの確立とその特徴</p> <p>第9回 16世紀のスコットランド</p> <p>第10回 スコットランド長老主義の成立と主教派（聖公会）の運命</p> <p>第11回 非国教徒とピューリタン革命</p> <p>第12回 ウェスレーとメソディズム</p> <p>第13回 福音主義とアングロカトリック</p> <p>第14回 海外への進出</p> <p>第15回 まとめ：今日の英国とキリスト教（レポート提出）</p> <p>※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。なお、私語などによって他の履修者の学習を妨げることを意に介しない学生は履修を遠慮して頂きます。
教科書 Textbook(s)	特にありません。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教礼拝学						
担当教員	単位認定者：勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	キリスト教会における礼拝の歴史を概観しながら、礼拝とはどのような行為であるのかを考える。また、聖公会の礼拝暦と「祈祷書」の内容について学ぶ。この科目は、「礼拝」について自覚的・批判的に考察することを目的とするものであるから、キリスト教会の礼拝に関する経験が前提となっている。
授業計画 Syllabus	<p>詳細は、後期の開講の前に改めて提示するが、概略は以下のようになっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ー4) の担当者は勝村。 1) オリエンテーション。礼拝とはどのような行為か。 2) 古代イスラエルにおける礼拝 3) ユダヤ教の祭礼と礼拝 4) 新約聖書から知られる初代教会の礼拝 5) ー7) の担当者は宮本（憲）。 5) 礼拝とはどのような行為か。 6) キリスト教会における礼拝の歴史（1） 7) キリスト教会における礼拝の歴史（2） 8) ー15) の担当者は藤井。 8) 礼拝とはどのような行為か。 9) 聖公会における礼拝、教会暦。 10) 聖公会祈祷書（1） 11) 聖公会祈祷書（2） 12) 聖公会祈祷書（3） 13) 聖公会祈祷書（4） 14) 聖公会祈祷書（5） 15) まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	基本的に講義形式であるが、適宜演習形式を加える。
評価方法 Evaluation	3名の担当者によって課されるレポートによる。以下に目安を示す。勝村担当分25パーセント。宮本担当分25パーセント。藤井担当分50パーセント。
履修上の注意 Requirements and policy	学期中に最低2回は、キリスト教会の聖日礼拝に参列し（教派は問わない）、そのレポートを提出すること。この条件を満たさない者には単位が与えられない。毎回の講義には、聖書を持参すること。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	神戸松蔭とキリスト教入門／単位認定者：待田昌二						
担当教員	単位認定者：待田昌二						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ 神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する</p> <p>私立大学は、それぞれ固有の顔を持っています。神戸松蔭の歴史と背景にある多彩なキリスト教の文化と活動・神戸の歴史と文化を学ぶとともに、キリスト教の礼拝を体験し、聖歌を歌いながら学ぶことで、神戸松蔭をよりよく理解し、ここで学ぶ意義を見出すことを目的とした授業です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 礼拝について (45分)</p> <p>第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教</p> <p>第3回 神戸の歴史と文化 その1</p> <p>第4回 神戸の歴史と文化 その2</p> <p>第5回 現代社会とキリスト教 その1</p> <p>第6回 現代社会とキリスト教 その2</p> <p>第7回 教会音楽について</p> <p>第8回 聖歌</p> <p>第1回と第2回は4月、第3回以降は9月に集中講義の形で行います。 第3回以降の順序は入れ替わる可能性があります。</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	授業時に毎回提出する小課題80%、授業態度20%
履修上の注意 Requirements and policy	体験的な内容を含む場合がありますので遅刻・中途退席厳禁。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	